



### 旧制七年制高等学校時代から 受け継がれる伝統の「ひと創り」

創立以来、97年間連続と受け継がれる甲南中高の教育理念「世界に通用する紳士」とは、単に知的レベルの高さだけではなく、健やかな身体と健全な常識を持ち、人を尊重できる「徳・体・知」のバランスの取れた人物を育てることにある。

大学進学へ特化した勉学や人格を軽視した教育ではなく、生徒一人ひとりの個性を尊重し伸ばす教育の気質は、旧制時代から現代にも受け継がれている。



### 科学的思考力を高める新コース 理系の素養と国際感覚を両立 フロントランナー・コース

ビジネスの国際化、多様な文化との共存が必要とされる21世紀を生き抜くには、科学的なものの見方とともに国際社会を意識した教育が必要。フロントランナー・コースに在籍する生徒は、中学1～高校1年生までの間、理系科目に重点を置いたカリキュラムの下で学び、長期休暇中も「特別授業」で実力を磨いている。

中学2～3年生にかけては「サイエンスラボ」「グローバルラボ」履修し、科学の幅広い分野で実験・実習を行い、理系の素養とともに国際理解やコミュニケーション能力を高め、国際舞台で通用する力も養っている。高校2年生より進路希望に応じて医歯薬理工系と文系に分かれ、自ら希望する大学に進学し、国際社会で活躍する道を切り拓いて行く。

### 健全で良識を持ち、逆境に強い グローバル人材を育成する アドバンスト・コース

多様化する社会を強く、しなやかに生きるために。アドバンスト・コースでは、健全で良識があり、逆境に打ち勝つ気概に富むグローバル人材の育成を目的としている。

高校2年時の海外留学を含む「グローバルスタディプログラム」を希望する場合は、中学3年時から始まる国際教養プログラムで、様々な立場の人と交流できるコミュニケーション能力、国際情勢や国際教養、リーダーシップなどを身に付ける。2015年度は東南アジアの代表的工業国であるタイでの短期留学が行われた。

英語圏の4カ国に姉妹校を持つ甲南では、1年程度の留学体験の機会も設けている。このような経験を通じ海外の大学へ進学する生徒も少なくない。「教室から社会へ、教室から世界へ」をコンセプトに、グローバル人材の育成は順調に進んでいる。



### 「いかに生きるか」を学ぶ ソフィア講演会スタート

生徒に「いかに生きるか」という哲学観を持ってほしい。さらに各界の第一線で活躍する人の考え・人生観を知ること、生徒に自身の将来を見据えてほしい。こうした思いから、甲南中高では2015年度より年2回のソフィア講演会が始まった。

15年度は、2020年東京オリンピック・パラリンピック招致に貢献したミズノ会長・水野正人氏が「信頼」について、日本初のバスタ手術を施行した心臓外科医・須磨久善氏が「命」についての講演を行った。「自分が人生の岐路に立った時、須磨先生の考え方を参考にしたい」などの声が寄せられ、生徒の人間性を養う、良い機会となっている。

# KONAN “今”の甲南学園を、伝える Times 2016

## 旧制高等学校の伝統を受け継ぐ、甲南の中高一貫教育 新コースがスタートしてさらに充実

中学・高校の6年間を通じて、段階的に生徒の力を育てていく中高一貫教育が近年改めて注目を集めている。

1919年創立、旧制七年制高校からの伝統を受け継ぎ、関西私立中学校でいち早く中高一貫教育を実現した甲南高等学校・中学校もその一つだ。

各界に優れた人材を送り出してきた同校は、2014年度からサイエンスとグローバルをキーワードに2つのコースを新設し、今春、第3期生を迎え入れる。

創立100周年に向けて、国際社会を生き抜く力を育てる甲南の一貫教育の取り組みに迫る。



### 一人ひとりが持つ無限の可能性と才能を おおらかに伸ばせる環境を整えています

甲南の創設者・平生三郎は、「世界に通用する紳士たれ」という熱い思いを掲げ、勉強だけに偏らない「徳・体・知」のバランスのとれた人材の育成を目指した。この精神は現代にも受け継がれており、甲南では「健全な心」「創造性」「文化的能力」「思考力と探究心」「強く生き抜く体力」の5つを軸とした教育を行っています。また平生は、教育の使命とはその才能を伸ばすことだと考えていました。甲南には生徒が自分の中にある可能性に気づきかけがあり、その才能に磨きかける環境やプログラムがあります。六甲の豊かな自然のもと、中高6年間で生徒の可能性を育みます。



校長 松田 博志

「徳・体・知のバランスの取れた  
「世界に通用する紳士」を育てる」  
勉学に力を入れている甲南生だが、勉強と部活を両立している生徒は多く、テニス部、馬術部、将棋部など全国大会で優秀な成績を収めるクラブも多い。さらに、中学と高校の幅広い年齢層の生徒と一緒に活動することで、尊敬や思いやりといった人格形成にも良い影響を与えている。  
2年ごとに「基礎」「応用」「発展」としてテップアップする甲南の6年間。グローバル社会の第一線で活躍する、新時代のフロントランナーを育てるため、昨年から「フロントランナー」構想を掲げ、理数教育とグローバル教育をさらに充実させている。「世界に通用する紳士」を育てるといふ長い伝統を継ぎ、甲南は社会の各分野でリーダーシップの執れる人物を輩出していく。

ひとりの紳士から始まった  
画一を排す「ひと創り」の信念  
知育偏重、人格軽視の画一的な詰め込み主義教育では、独創的な人間は育たない。日本の教育は教えるだけでなく、ものを考えさせるということをしない。明治、大正時代の学校教育への問題を感じていた平生三郎は「一人ひとりの個性を育て、自由のひとびとを育てる」を思い描き、甲南学園を設立した。  
平生が教員に求めた資質は専門教科とともに、各生徒の個性を伸ばし、生徒を主体とする教育を施すことのできる人物であった。そんな平生の教育理念に賛同した教員たちは創意工夫を凝らした授業を行った。その志は脈々と受け継がれ、生徒の好奇心を刺激する名物教師が育ち、「自学自修プロジェクト」や「E-Study」などの生徒の自主性を発揮する現在の甲南独自の教育内容が生まれている。

甲南学園は自ら考え、行動する人を応援しています